

頭が痛いです

I have a headache. [英語]
 Masakit ang ulo ko [タガログ語]
 मासकित अंगुलो को [タイ語]
 मलाई टाउको दुखेको छ। [ネパール語]

PHD LETTER

No.11 発行1984年6月15日

編集発行 財団法人 PHD協会
 〒650 神戸市中央区元町通5-2-3
 甲南サンシティ元町ビル7F
 電話 神戸078-351-4892
 郵便振替 神戸9-23625 PHD基金事務局
 定価100円 印刷所 マルニ出版印刷

PHD運動とは

PHD運動とは昭和37年(1962)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際ボランティア運動です。これまで自分のためにだけ使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、昭和56年(1981)からはじめられました。

アルミの空き缶集めは、天地の理法と歴史の法則に適った生き方の人をつくる

「アルミの空き缶が、30010も集まりました」と、電話をかけて来て下さったのは、人生の大先輩であります。「ありがとうございます!!」PHDのスタッフは、人生の後輩として、感謝感激。

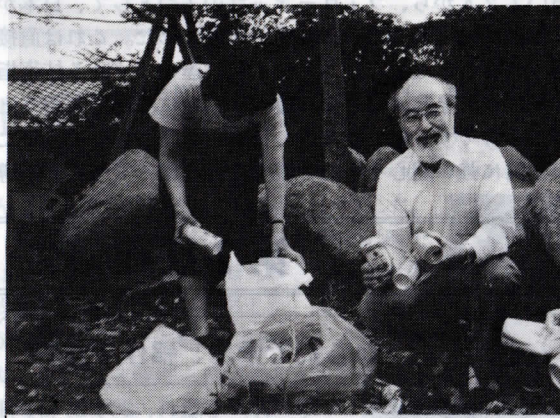
ところが、今直ぐと言われても、折角集めていたアルミの空き缶を、わたさずに行く人事も時間も足らぬ、PHD事務局にはない。こちらの統一悲鳴を、ちやんと察して下さった人生の大先輩は、後程、「アルミの空き缶30010を業者さんに引き取っていただき、1000円も送金して下さりました。」

今の相場では、アルミの空き缶5010=1キログラムを、業者さんに引き取ってもらい、1000円はわたす。ところが、「30010=6キログラムを引いて、1000円も下せる業者さんがいらつといませんか?」PHD運動の為に、何でも平直にまくといい素晴らしい美德が、あちこちで輝き始めました。

「実は、うちの孫もアルミの空き缶集めに協力してくれたので、このお礼を言いたくて、おじいちゃん、このお礼をPHDにしよう」と申しました。負うた孫に教えられる娘は、私のポケットマネーの10パーセントも送らせていただきました。世代の相異がPHD運動の中で、新しい美德を!! 私は、今、深く考えさせていたんで居ります。私と貴方様の人生の大先輩達が、祖父お父お母お孫おへと、伝えて来て下さった生きざまを、その中で生まれて来た「節約は美德」の意味を、その美德が人をつくる歴史を。

私と貴方様は、今、色々内外の問題の多い、自然と人間と社会のほざかに立たされて居ります。今、私と貴方様が、天地の理法と歴史の法則に適った生き方をする、その私と貴方の後輩を見ながら、人生の後輩達がPHD運動の中で新しい美德をつくる。アルミの空き缶集めで自然と人間と社会を!!

岩村昇



近くの公園で空き缶拾いをされる岩村先生
 Dr. IWAMURA is collecting wasted cans in his neighboring park.

昭和59年5月1日

試験研究法人認可の報告とお願い

財団法人PHD協会に認可されました試験研究法人とは、教育、文化、福祉など公益の増進に著しく寄与するものに与えられる法人格で、発足三年足らずの民間団体に認められるのは異例のことです。

厚生、大蔵両省の協議で指定が認められたもので、今後同法人に対する寄付は、税法上の特別扱いを寄付者が受けるなどの優遇措置が講じられます。

昭和56年、岩村昇博士の第一回国際ロータリー世界理解賞受賞を記念して発足いたしましたPHD運動団体が、試験研究法人としての認可をいただいたのは、本来、政府がしなければならない発展途上国との協力という大切なプログラムを財団法人PHD協会が代って行っていることが認められたからです。

財団法人PHD協会関係者一同は、この試験研究法人認可を機に、恒久的なPHD事業推進のための基本財産造成とPHD事業の一層の拡大発展を目指しております。

皆様のご支援とご協力を切にお願い致します。

— 6月はPHD月間です —

第2回(1984)のPHD月間をむかえました。本年は、つぎの行事を計画しております。

1. 空き缶回収作業(協会ニュースをご参照ください)
2. PHD感謝函の基金をPHD協会へてお送りください。ご家庭や職場、学校などに置かれているPHD感謝函の中を確かめてください。新しいラベルが必要な方は協会へて請求願います。
3. あなたの町や村、グループ、または個人でこのPHD月間に実践されたことを原稿用紙1枚(400字)にまとめてPHD協会へてお送りください。随時、機関誌やレターに掲載します。

6月3日(日)神戸新聞朝刊紙上に、PHD月間特集を企画いたしました。

第2期研修生〔1班〕帰国 豆腐づくりに大きな反響

約9ヶ月の研修を終えたラダーさんとサヒーさんは、4月17日、大阪空港を立ち、数日後、無事到着したとの知らせがネパールより入りました。ホストファミリーの岩下さん、酒木さん、岩佐さんをはじめ、研修のご指導をいただいた先生方、また生活面も含めお話をいただいた多くの皆さん、そして彼女達の滞在を資金面で支えて下さったすべての協力者の皆さんに心より感謝いたします。生活習慣の違いや事前のオリエンテーション不足のため、ご迷惑をおかけしたこともありましたが、ホストの皆さんのご理解とご協力で研修を続けることができました。今回の反省点は今後の受入れに反映させていただきます。4月26日、ネパール、カトマンズにおいて帰国した2人と彼女達の推薦機関であるネパール結核予防会とマザーズクラブの代表者およびネパール滞在中の岩村当協会理事の間で今後の活動についての話し合いがもたれました。その席において2人から、フォローアップの1つとして、日本から編物・洋裁関係の指導者の派遣要請がありました。これは直接の技術指導もさることながら、これから彼女達のすすめる技術指導へのいい意味でのPRと周りの人達への刺激になるであろうとの判断によるものです。また彼女達の日本での研修報告を聞いた推薦団体が豆腐に強い関心をもち、彼女達に豆腐づくり実演指導

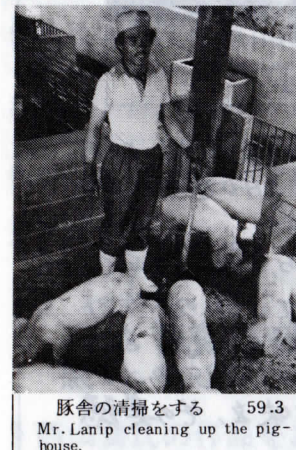


大阪空港で記念スナップ At the Osaka Airport, they bid farewell to friends and host families.

を期待し、その支援を日本側に求めてきています。「草の根の人々が自立できるためのボランティア運動、また自分よりも困っている人々のために、自分の10%を喜んでおすそわけする姿勢を拡げてゆきたい」と、ネパールでもPHD精神が大変評価されているとのこと。ラダーさん、サヒーさん、元気で頑張ってください。私達も遠い(心は近い)日本から応援します!!

第2期研修生〔2班〕現況報告

ウィリーさん からだで学ぶ、稲作・養豚



豚舎の清掃をする 59.3
 Mr. Lanip cleaning up the pig-house.

寒い神戸を離れ、2月20日、日本の最南端の石垣島に移り、徳村享さん宅のお世話で、稲作を中心とした研修に入りました。丁度田植えに間に合い、徳村さんの三男浩さん(23)の指導を受けたウィリーさん「イネの品種も、植え方もフィリピンと違う」との感想。稲作以外にもサトウキビ、スイカ、パイナップル等、フィリピンに共通する作物の作業を通じ、4月末まで実習しました。実習以外にも八重山農業改良普及所、農林水産省熱帯農業研究センター見学、農協の4Hクラブの方との交流等がありました。5月からは沖縄本島、嘉手納町の喜友名朝祐さん宅で養豚の勉強です。豚160頭の世話をしながら、できるだけ少ない支出で成立つ経営の習得を目的とし、さとうきびカスの飼料利用、糞の肥料化等はフィリピンでもすぐ役立つそうです。また嘉手納は基地の町でもあり、平和について考える機会になることと思います。6月下旬には石垣に戻り、稲の収穫を行います。

徳村さん宅 石垣市宇登野城379 TEL 09808-2-8592
 喜友名さん宅 中頭郡嘉手納町字嘉手納406 TEL 09895-2-2845

《《 第2期研修生予定表 》》

	サンバさん	ウィリーさん	レネさん	ビッシュヌさん
1984年6月	指 庄 (兵庫県立盲学校野田さん宅)	養 豚 (沖縄県中頭郡喜友名さん宅)	みかん・野菜 (沖縄県名護市比嘉さん宅)	養 鶏 (岐阜県種鶏場天本さん宅)
7月		稲 作 (沖縄県石垣市徳村さん宅)		
8月			大豆・野菜 (兵庫県内農業家庭)	養 鶏・養 豚 (兵庫県内農業家庭)
9月			果樹・野菜 (兵庫県内農業家庭)	

ビッシュヌさん 異文化のとまどいをのり越える

2月中旬より、多紀郡の原さん宅、津名郡の淡路文化会館、広島さん宅、三原郡の前田さん宅、小野市のふえろう村で4月中旬まで農業実習させていただきました。カースト制度のあるネパールでは、仕事の内容もカーストにより違います。農業実習に入った当初、彼はあまり働こうともしませんでした。様々な作業を全部自分でしなければいけない日本の農業に、抵抗を感じていたようです。現在は、7月中旬までの予定で、岐阜県関市の岐阜県種鶏場で、張りきって研修に励んでいます。孵卵、育すう、雌雄鑑別、病気など、鶏に関する基礎的知識、技術を身につけることを目的としています。日本での感想を聞いてみますと、「日本人は上下の区別がなく、皆、同じように働いています。だからこんなに発展したのだと思います。」「日本人が、みんな忙しいのには、びっくりしています。」と言っています。

天本健二さん宅 岐阜県名護市蘇原六軒町1の27の2
 TEL 0583-82-1656

レネさん 健康回復、研修に入る

来日後、結核治療のため入院していましたが、神戸市立津津病院、京都市立病院のお世話で全快し、3月末に退院しました。もし気づかず放っておいたら、命にかかわるところだったそうです。レネ君にとってPHDのH(健康)を考える貴重な体験にもなったことと



ミカン園で比嘉さんの指導を受ける 59.5
 Taking a lesson on orange from Mr. Higa.

思います。これからは彼は禁酒、禁煙、規則正しい生活を主治医の先生から申し渡されています。その後、神戸でからだならしをしながら、日本語を勉強し、5月より沖縄県名護市で農業研修に入りました。比嘉栄三郎さんのもとでミカン栽培の他、マンゴー、メロンなどの栽培について学びます。

比嘉さん宅 名護市字名護1488-3 TEL 09805-3-1326

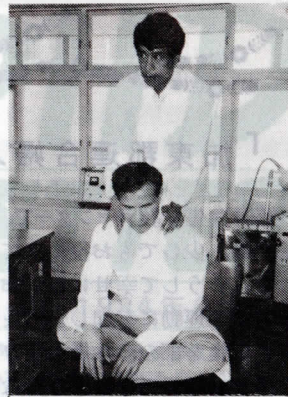
サンバさん 村でできる「健康づくり」を広めます

7月25日帰国予定のサンバさんは、4月10日から7月10日まで、神戸市垂水区の兵庫県立盲学校で、指圧を中心に学んでいます。今回は、サンバさんにネパールについて話してもらいました。

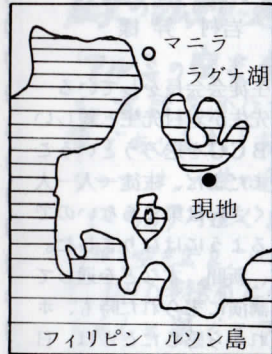
「山の人々についてお話しします。90%の人々が読み書きができません。子供たちは、家から4時間もかかって学校に行きます。学校は遠いし、学校や本のお金は高いです。お父さんやお母さんは、1日仕事をして200円もらいます。そのお金では、子供たちの勉強は難しいので、お父さん、お母さんと一緒に仕事に行きます。水は、毎朝4時間歩いて川にくみにいきます。家には、トイレやお風呂はなく、外でします。山の人々の仕事は、95%が農業です。山では、とうもろこしとじゃがいもが取れて、平地では、米と麦が取れます。殆どの人が牛と人力で耕します。貧しい人たちは、とうもろこしの粉を主に食べて、米はあまり食べることはできません。今、ネパールでは、栄養のある食べ物十分でなく、

病院も遠く、お医者さんも山や村々に行けなくて、薬も足りません。簡単な病気で人が死にます。一番危ない病気は結核で、栄養失調とお腹の虫のために子供たちも大変多く死にます。私は、ネパールで山や村の人々のところへ行き、健康の相談にのり、アドバイスをします。結核の薬をあげたり、注射もします。私は日本で、検査とリハビリテーションと指圧、鶏の勉強をしてきました。ネパールに戻ったら、村の人々に教えて、村の人々が自分で健康を守るようにしたいです。」

野田泰弘さん宅 明石市太寺4丁目3の27 TEL 078-918-2169



古賀先生を相手に指圧の実技をする Mr. Kayastha is practicing "Shiatsu" on his teacher Mr. Koga's back.



第1期生フォローアップ

PHILIPPINES WORK CAMP

フィリピンワークキャンプ報告

第1期研修生M・ロサーナ君に対するフォローアップの一環として5月10日から16日まで、フィリピン、ラグナ州タゲンパイ村でワークキャンプを行いました。

溝口和秀(46)ロサーナ君の日本での

受入家庭、農業、篠山町

徳永 功(26)会社員、伊丹市・松本美樹(22)会社員、神戸市

エドワード・モルティモア(23)英語教師、神戸市

上記メンバーに協会職員1名が同行し、まずCCHP※の事務所での活動について説明を受けた後、ロサーナ君宅へ。今回のキャンプの目的は彼の計画するアヒル事業のための装置づくりにあります。これはラグナ湖で採れる小魚をエサとするための乾燥機で、市販品もありますが、大きさが適当でなくかつ高価なため、ロサーナ君が大学の図書館で構造を学んで、我々を待ちかまえていま



後列左から2番目がロサーナ君 Mr. Rosana, standing in the back line the second from the left.

した。11日から日本から持参した工具を用い、作業に始まり、15日までに8割方作りました。期間中、彼の家に泊り、家事手伝いも作業の一部です。丁度この時期にフィリピンでは総選挙があり、アキノ氏事件後、初の選挙とあって、我々は活発な選挙活動を見ることができました。同じく1期生C・パニサレスさ

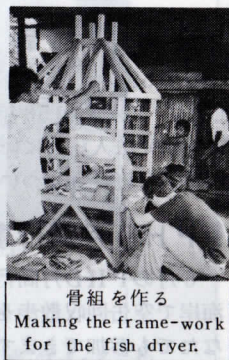
ん宅にも全員で訪問し、歓迎をうけました。

短い滞在で、必ずしも十分な量の応援ではなかったかもしれませんが、完成した乾燥機がうまく活用されること、また参加者がこのキャンプで感じた何かを、今後に生かし、それを他の人々に伝えてくれることを期待します。二人の1期生から、協力者の皆さんによろしくとのことでした。4人の感想を紹介します。

日本では、足りない物や不自由だとすぐ買う習慣になってしまっている、手持ちを工夫して補うことを忘れてしまっているのでは(松本)。市場の食堂で客の食べ残しを、粗末な身なりの子供がとりあっていた。隣りで食べていた客は気にもとめていないようだったが、ショックだった(徳永)。経済のしくみ、特に流通面、土地所有のあり方などがわからない限り、個々の努力だけでは生活水準の向上はのぞめないだろう(エドワード)。稲刈後のワラを田で燃やしているのを見かけたが、そうしないで、例えば、アヒル小屋に敷いてから、それを堆肥にする方法とか、金を使わなくてもできる増収策があるように思った(溝口)。

※CCHP

フィリピン大学総合地域保健計画の略称 フィリピン研修生の推薦機関



骨組を作る Making the frame-work for the fish dryer.



8割がたできあがった乾燥機 The fish dryer has been almost completed as shown above.

草の根交差点 (その五) <衣服と住居>

衣服…ネパールの山地住民は年に1~2回、服を仕立てるそうです。男性はシャツとズボン。女性はサリー、しかもそれは、テーラカーストと称する洋服屋さんがいて全ておまかせ。即ち、一定の素材型で、おおよそファッションには縁遠いようです。その他、はた織やレース編みも普及していますが、材料費が高く、一般庶民の趣味としては、とても手が届かないようです。

住居…木がべらぼうに高いので、支柱だけ木を用い、あとはレンガや石を積んだ家がほとんど。少し余裕のある家は、焼いたレンガを使用、他にわらぶきの家も沢山みられるそうです。そして、家の中の灯りとしては、バザール(市)などで売っている空き瓶や空き缶に、

菜種油と灯芯を入れ、ランプ代りに使うようです。この空き瓶、山地では瓶の数が少なく、葉の入っていた小さな空き瓶ですら、捨てずに大切にしておくそうです。

お話を聞いていると、ネパールの人々と私たちの風俗、生活に大きな違いを感じます。しかし私たちは、これらを遠くから眺め、郷愁のように捉えてはいけません。聞くところでは、西暦2000年、今の子供たちが大人になった時、人口増加による食料不足が地球上に到来するとか。その時、豊かさ、便利さに慣れた日本の子供たちに、国際社会でどのように対処していけるのでしょうか…。心貧しい民族であって欲しくないですね。そのためにも、私たち大人は、今の子供たちに、心豊かに生きぬく基盤を与える責任があるといえるでしょう。



PHDサウンド

3 世界のPHD運動グループ紹介

「加東郡連合婦人会」

小林 夏子

娘野台生涯教育センターで、岩村先生の御講演と映画を拝聴した私達は、少しでもお役に立てればと、郡の理事と相談したところ、こうして幸せに日がくれる私達のその一部でも、差し上げるこの運動に参加しようということになり、一日一円と古切手蒐集を郡の全会員に呼びかけました。

最初は趣旨の徹底もなかなかでしたが、「明日になって多くの遺産をあげようと思うより、今日一日一銭の金を明るく気持ちであげなさい」とのゲーテの言葉を引用して、機会ある毎に全会員にお話しして来ましたところ、今では郡内全会員に、「共に生きる」趣旨が徹底し浸透してまいりました。

結核で娘と別れて山を越えて帰った母親の無量の想いの眼の色、黒ずんだ一本のバナナをもって幼ない息子を訪ねて来た父親の姿が今も忘れられません。

協会ニュース



§ 理事会報告

昭和59年5月7日(月)県立のじきく会館で理事会が開かれました。1. 昭和58年度事業報告 2. 決算報告の承認に続き、試験研究法人認可に伴う業務体制とIIRR(フィリピン)とPHDの研修交流計画についても審議されました。

§ PHD月間行事に参加してください

6月のPHD月間行事として6月24日(日)須磨浦公園、須磨海岸で空缶回収散歩を行います。PHD研修生も参加します。どなたでも参加できます。山陽電車の須磨浦公園駅前に午後1時集合です。雨天中止。軍手を持参してください。

§ PHDセミナーご案内

6月30日(兵庫県三原郡)研修生サンバさんを囲み、また7月6日(石垣市)、7月7日(嘉手納町)にウィリーさん、7月8日(名護市)にレネさんを囲んで行予定です。ネパール、フィリピンのスライドを用意します。詳細は協会まで。

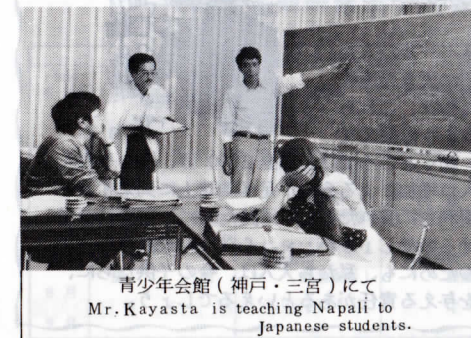
§ 西山喬氏の作品をお頒けします

第3回PHD現地研修旅行に参加された西山喬氏が、ネパールを題材に製作した格調高い木版画、陶板、陶皿をお頒けします。お問合せは協会まで。

§ 研修生と合宿生活をしてみませんか

4名の研修生と共に自然の中で自炊の合宿生活をします。とき：7月11日~16日 ところ：兵庫県多紀郡篠山町後川新田「たんば農文塾」日帰り、泊り、いずれも可、詳しい案内を用意しています。協会までお問合せ下さい。

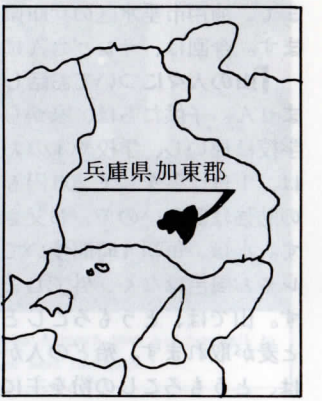
§ ネパール語講座始まる



青少年会館(神戸・三宮)にて Mr. Kayastha is teaching Nepali to Japanese students.

4月に開講しましたネパール語講座は、皆さんとても熱心で、講師陣(河合、サンバ、タバ、シャルマ氏)の指導にも力が入ります。

この話を孫たちにしますと、真けん顔で聞いていて、その中のやんちゃ姫のあだ名のある小学生が、「おばあちゃん、これもいっしょに送ってあげて」と、貯金箱から十円玉をいくつか私の手にあけてくれますが、まわりが幸せになれば私達も幸せになるのだと話す意味を幼ない者も分ってくれるのが何より嬉しく感じ、このPHD運動を続けて行きたいものと、念願しております。



お便り紹介

岩村 昇様

前略、初めてお便りいたします。

ぼくは、埼玉県越谷市立富士中学校で、生徒会会長をしている井上勉といいます。ぼくの学校では教頭先生が岩村先生と親しいということもあり、ネパールの人たちへBCGを送ろうということで、古切手収集運動を行っています。まだまだ、生徒一人一人の意識のうすさもあってか、それ程、たくさんは集まらないのですが、それも年に5~6万枚ぐらい集まるようにはなりました。

先生のネパールでの活躍は、テレビ、新聞、本などを通してお聞きしています。いつだったか越谷へ講演に来られた時も、ホールの片隅でお話を聞いていました。それから感じたことは、日本やアメリカの生活水準とネパールのそれが、どうしてそんなに違うのかという疑問です。それは、すべての人たちが裕福な暮らしができるようにはならないでしょうが、少なくとも1基何百億のミサイルや兵器がどどん作り出されていくなかで、その陰では何万、何十万という人々が飢えや病気で死んでいく、そんな矛盾が許されていいのでしょうか。ミサイル1基分でも2基分でもいいから、苦しんでいる人々への援助資金にする、そうしたほうが軍縮にもなるし、貧しい国々も安定して、きっと世界平和に役立つはずなのです。

けれども現実にはそう簡単には変わりありません。これを変えていくのは、1人1人の善意の気持ちだと思います。そのためにも、先生やお仲間の方たちの地道な活動を、ぼくたちが少しでも助けて、広げていけるようになればと思います。これからも、微力ではありますが先生が始められた運動を生徒会活動の重要な柱にすべくがんばっていきたく思います。突然のお手紙と生まれながらの悪筆をお許しください。ではどうかお元気で、これからもネパールの人々のために働いてください。心から今後のますますのご活躍をお祈りいたします。 さようなら

昭和59年5月3日 井上 勉

§ 第4回PHD現地研修旅行予告

今回は、タイ北部を候補地に、12月の予定で準備をすすめております。詳細は次号をごらんください。

§ 研修生のホームステイお願い!

次期研修生の短期、長期のホストファミリーを探しています。

ネパール/男性/公衆衛生、ネパール/女性/裁縫
タイ/男性/農業、フィリピン/男性/テレビ番組

フィリピン予定者は大阪府淡水魚試験場(寝屋川市)での研修を予定していますので、その付近を希望します。全員、来年3月頃の来日予定です。

§ PHD募金箱設置にご協力を!

緑の半透明、アクリル製募金箱を用意しております。長期、短期いずれでも結構です。あなたの町の集会所や職場に設置していただけないでしょうか。